

6月議会報告

一般質問

日本語指導教室への支援を

市議会議員・代理人 ドウマンジユ恭子



調布市在住の外国籍の人は、5月現在4107人、そのうち市内の公立小中学校に通学している外国籍の児童は70人近くに上ります。日本語で自由に意思疎通ができないため、子どもの学習はもとより、保護者との話し合いにも困難をきたしています。

このような子どもたちへの支援体制を求めて質問しました。

調布市で行われている支援事業の一つは、学校への日本語指導臨時講師の派遣です。ひとりにつき6ヶ月、100時間を限度に授業中のサポートや、教室外での指導を行います。

もう一つは日本語指導教室で、調布市国際交流協会に委託され、日本語指導の研修を受けた人や、東京外語大の学生などが無償のボランティアとして週2回、教育

会館で小中学生の指導に当たっています。

日本にきたばかりの子どもたちは、日本語での意思疎通ができず、生活習慣や文化の違い、学校生活での不安など、様々なストレスを抱えることとなります。

特に中学生は授業が難しく、高校受験も控えていて、集中的に日本語の指導を行い、教科の補習も行えるようにすべきです。

家庭と子どもへの支援体制の強化を図れ

文部科学省は今年5月、「定住外国人児童生徒や親の相談相手になり、日本語能力が不十分な親の支援を行う要員が必要」という政策のポイントを発表しました。

生活者ネットワークは、保護者と学校が話し合うときに通訳や福祉的な支援ができる人を派遣するなどの体制を整えることを求めました。

生活文化スポーツ部と教育部からは関係諸機関との連携を図るとの答弁でした。教育部は多面的な視点で必要な支援を検討していくとも答えました。

チャレンジ調布市民版 事業仕分け!

調布市は税金を使って行う事業を担当者がチェックし、自己評価しています。事業の対象となる市民の数や数値目標、予算などが一覧表になっていて、市民にもわかりやすい評価表です。

この表を使って、調布ネットで調布市版の事業仕分けに取り組んでみました。

取り上げたのは「入浴券交付事業」。事業の目的は「外出の機会を設け、地域のひととの交流を通して介護予防・健康増進に寄与すること」で、調布市・狛江市の公衆浴場で利用できる入浴券を年に30枚交付します。対象者は70歳以上のひと

り暮らし高齢者で、居住する住宅から半径300m以内に3親等以内の親族が居住していない人。東京都の入浴券交付事業の受給者も対象外です。

平成18年度から20年度までの実績を見ると、対象者は4500人から5300人に増え、利用者も1151人から1306人に増えています。市が負担する予算も六百万円から一千万円に増加しています。

評価表を囲んでの市民の「つぶやき」は…

Aさん 高齢者の外出の機会が増えて元気になるなら、高齢者にはいい制度ね。でもひとり暮らしの人しか利用できないのはおかしいわ。高齢者にとって風呂そうじは負担でしょ。

Bさん 近くに3親等以内の親族が住んでいるとダメという条件は変ね。今どき、子どもの

家にさえお風呂を借りには行かないでしょ?

Cさん 調布市に聞いたら、条件の緩和は予算的に無理だそう。それに市内の銭湯の数が減っていて近くに銭湯がないから、交付対象者の一部の人しか利用していないのね。

Aさん 人によって不公平になるなら、全額市が負担するというのを考え直す必要もあるわね。

Bさん 銭湯に関係ある産業振興の部署とは話し合いをしているのかしら?利用者がいるからといって漫然と続けるのではなく、市全体の福祉政策の中でどうするのか、利用者や関係者、市民の意見も聞いて考えていくべきよね。

評価表は市のホームページで見ることが出来ます。

視察報告

高齢者と若い世代が「交ざって暮らす」ゴジカラ村

6月下旬、愛知県長久手町のゴジカラ村を訪れました。アフターファイブのようにゆっくりと時間を過ごそうというメッセージが村の名前こめられています。名古屋市の緑地公園に隣接した雑木林の中には、高齢者の多様な住まい方をサポートする場所として、特別養護老人ホーム、ケアハウス、デイサービスセンター、訪問介護ステーションなどのほか、幼稚園、託児所、介護専門学校があり、多世代交流も行われています。

ゴジカラ村の特徴は、現代の日本では希薄になってきている人との関わりを、いろんな場面で作り出す仕掛けがあるということです。「ぼちぼち長屋」では、介護が必要な高齢者と独身女性やファミリー世帯が協同で暮らすことでさりげない助け合いが生まれています。調布市でも、地域のコミュニティに多様な人がいて、互いに出来る事で支えあう多世代交流と地域再生を進めていくことが課題です。そのヒントとなる視察でした。



ゴジカラ村の入り口

市民の声から

野川に汚水が流出

心配される環境・水生生物への影響

「4月30日頃、入間川と野川の合流点の脇(入間町2-22先)から黄色い汚水が終日放流され小田急鉄橋辺りまで異臭が漂っている」と市民の方から連絡がありました。

市の下水道課に話を聞くと、汚水流出箇所から川沿いに配管されている38号幹線に汚水が滞留しており、野川大橋付近の合流箇所の手前にごみが詰まっているのが確認されたということです。現在野川大橋の付け替え工事が行われているため、その影響も考えられ、詰まりのある箇所の管の取替え工事を行うということです。

湧水を集めて流れる野川には、カゲロウの幼虫やエビ、魚類などたくさんの生きものが棲息しています。流量があまり多くないので、汚水による環境や水生生物への悪影響が心配されます。

再び浮上した野川水再生センターの計画

さらに東京都では昨年「多摩川荒川等流域総合計画」を改訂し、平成36年度までに、処理水量26万トンの野川水再生センターを建設するという計画が出されました。これが実現して野川に塩素の入った処理水が放流されることになれば、カワセミも飛んでいる野川の環境が破壊されることは目に見えています。これからは生活者ネットワークはこの計画には反対していきます。

インフォメーション

出前講座「調布っこ すこやかプラン」

一向に解決されない虐待・いじめ、保育園の待機児問題等々に、調布市はどう対応していくのか、子どもの自立をどう応援するのかを学習します。

日時 7月27日(火) 10:00~12:00

場所 調布市教育会館202

主催 子育て応援団「グレーヌ」